

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第47週 (11/19-11/25) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		47週	46週	45週	44週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	11/19-11/25	11/12-11/18	11/5-11/11	10/29-11/4	11/12-11/18
			47週	46週	45週	44週	46週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	2 0.11	2 0.11	1 0.06	40 0.30
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	1 0.06	3 0.17	61 0.45
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		33 1.83	43 2.39	40 2.22	40 2.22	347 2.57
	感染性胃腸炎		106 5.89	91 5.06	100 5.56	78 4.33	589 4.36
	水痘		6 0.33	1 0.06	1 0.06	2 0.11	36 0.27
	手足口病		12 0.67	14 0.78	16 0.89	27 1.50	153 1.13
	伝染性紅斑	↓	12 0.67	16 0.89	9 0.50	9 0.50	109 0.81
	突発性発しん		8 0.44	10 0.56	9 0.50	8 0.44	47 0.35
	ヘルパンギーナ		0 0.00	3 0.17	4 0.22	1 0.06	19 0.14
	流行性耳下腺炎		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	9 0.07
	インフル		0 0.00	4 0.14	6 0.21	5 0.18	106 0.49
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	1 0.25	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	2 0.40	8 2.00	7 1.40	35 1.00
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	7 0.78
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	破傷風	男性	60歳代	臨床決定
結核	男性	70歳代	胸水ADA値の上昇	百日咳	男性	10歳未満	抗体の検出
結核	男性	70歳代	画像検査等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
E型肝炎	男性	60歳代	血清IgA抗体の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
急性弛緩性麻痺	女性	10歳未満	急性の弛緩性の運動 麻痺症状の継続等	風しん	女性	50歳代	血清IgM抗体の検出
				風しん	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出
急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び先行感染症状	-	-	-	-

・第47週は、結核4件(157)、E型肝炎1件(7)、急性弛緩性麻痺1件(3)、急性脳炎1件(11)、梅毒1件(23)、破傷風1件(2)、百日咳2件(200)、風しん3件(82)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

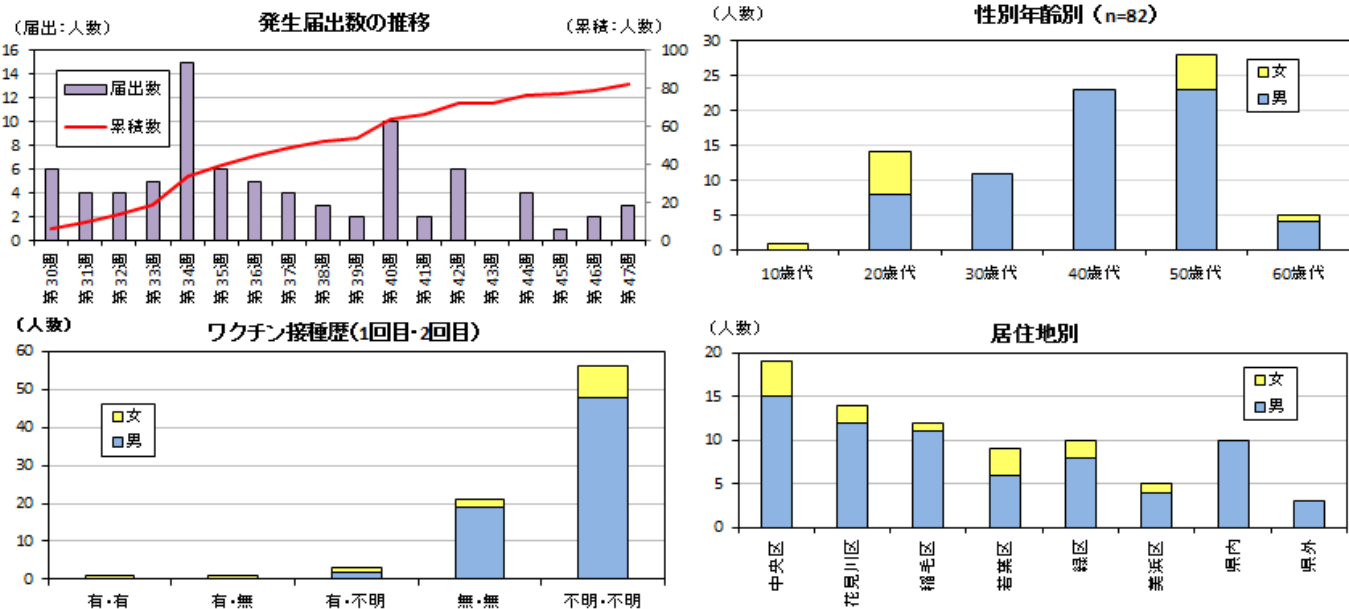
定点当たり報告数 第47週のコメント

＜伝染性紅斑＞前週より減少し0.67となったが、過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

<風しん>

全国レベルの第46週の累積報告数は2186件で、昨年の同時期と比べるとおよそ27倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県順で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第47週は3件の発生報告があり、2018年の累計は82件となっています。性別は男性が84.1% (69名)、女性が15.9% (13名)で、年齢階級別は、50歳代 (34.1%:28名)、40歳代 (28.0%:23名)、20歳代 (17.1%:14名)の順で多く、40歳代～50歳代の男性が中心となっています。居住地別では、中央区 (23.2%:19名)、花見川区 (17.1%:14名)、稲毛区 (14.6%:12名)の順に多くなっています。患者におけるワクチン接種歴は、無し又は不明が9割を超えています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第46週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では宮城県、新潟県、東京都の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第47週は前週より減少し0.67となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は稲毛区 (2.0/定点)で流行発生警報開始基準値と並び最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第47週の累積報告数は154件で、性別では男性が51.9% (80名)、女性が48.1% (74名)で、年齢階級別では4歳 (17.5%:27名)、5歳 (16.2%:25名)、6歳 (13.0%:20名)の順で多くなっています。

